

【めむろ未来ミーティング】

令和7年9月 18日(木)

18:30～19:50

めむろ介護保険事業所等連絡協議会 (けあねっとめむろ)

■参加者 27人

■芽室町 町長、高齢者支援課長、介護保険係長、
広報広聴係長

- 1 町長挨拶
- 2 実施団体代表挨拶
- 3 意見交換

●町長挨拶要旨

介護事業者の皆さんとこのような機会を持てて大変嬉しく思っている。テーマとして「現場のリアル」ということが挙げられているが、我々も机上で考えるだけでなく、現場の皆さんがどのような課題を持って仕事をしているのか、あるいは町の考え方などを相互理解しながら進めていくことが非常に重要だと思っている。また、講演会や勉強会など、様々な活動を積極的に行っている皆さんに対し、敬意を表したい。

これから介護の世界はこれまで以上に重要になると認識しているが、担い手不足などの課題もあると思う。今日はテーマも色々あり、ざっくばらんにお話しできたらと思っている。

●けあねっとめむろ代表挨拶要旨

今回、このような場を設けていただき感謝している。今日は自分の会社で抱えている課題などを共有させていただき、それらを持ち帰って共通認識を図つていけると有意義な時間になると思っている。

今後、二回目、三回目の実施も考えていきたいと思っているのでよろしくお願いしたい。

◆意見交換(テーマは別紙次第のとおり)

●けあねっとめむろ

懸念しているのは高齢者の交通手段。じゃがバスがあるが一方通行。そして2時間に一回。どうにかして交互通行にならないか。送迎をしている個人病院や、上美生地区でネットを繋いた診療も始まっているが、交通手段は何とかならないものかと気にしている。

●町長

高齢者だけではなく、交通手段の確保はこれから本当に重要になってくると思っている。仰るとおりじゃがバスは一方通行であり、例えば行きは目的地にすぐ着くが、帰りは遠回りしないと帰れないとか、運行も2時間に1本であるとか、不便な部分があるということは私も認識している。

東京の山手線のように内回り外回りの双方向の運行ができるいいと思うが、その分費用がかかる。じゃがバスは大体3,000万円から4,000万円くらいのお金をかけて運行しており、全然人が乗っていないと思われるかもしれないが、実は自治体のコミュニティバスの中では優秀な方で、平均5～6人、便によっては10人近く乗車しているときもある。

私も昔から双方向で運行している形が望ましいということ言っていて、いつまでも費用のことは言つていられないが、そのような形にするとしたら、車両も買わなきゃいけない、運転手さんの確保も必要になる。それらの課題はあるが、双方向の運行になれば利便性も増して乗り方が変わってくると思っている。

また、スクールバスはどなたでも乗れるため、郊外から市街地にスクールバスで来て、帰る時に良い時間帯の便がないなど、郊外との繋がりに関しても課題があるので、アクセスの向上など、なかなか対応は難しいが研究していきたい。

これはあまりまだ外には出ていない話だが、生活圏である帯広市と音更町、幕別町、芽室町の近隣1市3町の首長間で、コミュニティバスの連携ができないかという話をしている。この1市3町はコミュニティバスを持っているので、それをそれぞれの市町で巡

回できるような方法をとれないかということで、例えば、帯広市のコミュニティバスが西帯広から芽室に来るとか、その逆の動きをするとかということが理想形。簡単にはいかないと思っているが、そういう形も高齢者を中心とした交通手段問題の解決に繋がるのではないかと検討している。ただ、運輸局の問題があり、コミュニティバスは基本的にその自治体の中でしか動けないというルールがあるので、いかにそのような基準をクリアして、広域連携できなかというところを研究していきたい。

いずれにしても、やはりできるだけ早い時期に解決策の一つでもやっていくということを頭に入れて進めていきたい。これから高齢化もさらに進むため、重要な問題だと認識している。

●けあねっとめむろ

今年の冬に大雪の日があったが、公立芽室病院は開けていた。しかし、病院と薬局の間の道路が除雪されていなかったため、そこを歩くのは非常に大変だった。病院にも伝えてあるが、病院にも薬局はあるので、あのような状況であれば、臨時的に病院の中で全部対応できるようにした方が患者さんのためになると思う。

●町長

確かに臨時に病院内で完結できるようにするような対応も必要かもしれない。また、病院も除雪の機械を持っているので、間に合うかどうかという部分はあるが、機械で除雪するということも一つの方法かもしれない。

病院にも伝えていただいているということだが、改めて伝え、そのような対応も考えていきたい。

●けあねっとめむろ

じゃがバスに関して要望になるかもしれないが、今は施設(けいせい苑)への面会は自由に来ていただくような機会を作っているが、ご家族が高齢な方が多く、交通手段がなくて面会に来ることに不便を感じているという声がある。近くにバス停はあるが、施設側にバスが停まっていたければ、家族の面会がもう少し楽

に来られると思っている。

それと、人材不足の件にも繋がるが、これから介護の道に進みたいと思ってくれる高校生中学生が増えてくれたらいいなという部分で、交通手段のない学生たちが気軽に施設にじゃがバスに乗って来られるようことができたら、今後未来に繋がっていくのではないかとも思っている。停留所も色々な制約があると思うが、そのような要望を聞く機会も設けていただけたらと思う。

●町長

今ちょうど芽室町のコミュニティバスの停留所数がかなり多くて素晴らしいとSNSで話題になっているところ。

停留所は町内会の方々に調査し、便利な場所に変えたりもしている。現在は道路を渡らなくては施設に行けない場所に停留所があるため、逆側に設置できないかなども含めて検討の余地はある。担当にも話しておく。

中高生に関してはそのとおりだと思う。例えればけいせい苑さんに研修に行くためにじゃがバスを使うということも非常にいいことなので、PRしてもいいと思う。

介護関係の資格取得に関する助成もしていたり、奨学金も制度としては走り始めたりしているので、そのような面も含めて人材の確保に結びつけていきたい。

●けあねっとめむろ

病院の受診等に際して、現在、タクシーが夜間から朝方まで無い状況であるため、その時間帯に具合が悪くなつて受診したいとなったときの交通手段がない。そのため、そこまで重症ではないが、交通手段がないため救急車で来なければいけないような状況だったり、受診が終わつて入院するような状態じゃない場合に帰る手段がなかつたりすることがある。最近はタクシーや介護タクシーも少なくなつてきている状況であることは理解しているが、夜間でも皆さんのが安心して受診できるような方法を考えていただけたらありがたい。

●町長

確かにタクシー業界もかなり今厳しく、人がいなくて苦労されている。コロナ禍以降、夜もニーズが多くないため台数も少なくなってきて、本当に苦しんでいるようだが、抜本的な解決策がないような実態で私たちも困っている。先ほどコミバスの話もでたが、同じような状況。ただ、交通手段の確保は重要であることから、町内のタクシー会社が提携している帯広市のタクシー会社から応援いただけないかなど、これからも要請していきたいと思っている。いずれにせよ、大きな課題として認識しているので、業界の方ともしっかりお話ししていきたい。

●けあねっとめむろ

老朽化した公営住宅に住んでいる高齢の方の次の住まいに関する町からの情報などが、住んでいる方から聞くとそれぞれ受け取り方が違っていて、町としてはどのように周知していて、また、老朽化した公営住宅に住んでいる方の次の行き先などを今後どのように考えているのか伺いたい。

また、ご存知のとおりシニアハウスが閉鎖され、ちょっとのサポートや見守りがあれば住んでいいけるような元気な高齢者の行き先が困っている状態なので、その辺りの展望もお聞かせいただきたい。

●町長

公営住宅の住み替えに関するアンケート等を実施すると、いつ出でていかなきやいけないのだろうというような不安の声も私のところまで届いてくる。10月から民間事業者に建てていただいた建物を町が借り上げる形で駅の裏に12戸スタートするが、ここに住まれる方は住み替えの形であり、今の町の考え方としては、このように、基本的に住み替えのお声かけをしていきながら、うまく話しがまとまつたら入っていただき、まちなかに移っていただきこうと考えている。

公営住宅は1階は基本的に一人暮らしの高齢者がメインで、2階は割と若い方、2LDKであればご夫婦で住んでいただけるような仕組みにしている。一方で、家賃の関係もあり、古い住宅でもいいから住み

続けたいという方もいるが、町の方針としては、公営住宅を一定程度の区画で退去いただければ、そこは解体して違う用途について考えていく方針である。

借り上げ公営住宅も、今回はたまたまオープンすることができたが、建設費が上がっていて、町からの委託料を含めても採算が取れないことも多く、事業者がなかなか手を挙げてくれなくなってきた実態。なので、これから公営住宅は基本的に借り上げの方式で進めていくうと思っているが、町が家賃補助させていただいて、民間事業者のマンションやアパートなどに住んでいただくという方法もあり得るかもしれないと思っている。模索している段階であり、今の計画上は家賃補助という発想はないが、次の計画の中で盛り込んでいくことも検討していく。

●けあねっとめむろ

社会福祉協議会にもご相談いただくことがあるが、身寄りがない方や親族が近くにいない方が、転居が必要になった場合、身元保証人やどなたかご家族の方がいないと契約できないという事例があり、外国人労働者にも関係するかもしれないが、シニアマンションが減ってきてているということもあり、そのような方の安心安全を守れるような住宅など、芽室町として何か方向性があればお聞かせいただきたい。

●町長

シニアハウスに関しては民間事業者の意向も影響する。閉鎖したこともどちらかというと施設側の都合も大きい。次の受け皿がないかということはやっていただいたが、住まいがなくなるということは大きな問題である。ただ、介護施設以外は基本的に民間事業者の部分であり、もしそのようなお話があれば芽室町としてはぜひ来てくださいという話ができるが、その辺の難しさはある。

今後については、地域包括ケアシステムの中にも住まいということを明確に謳っているので、推進していく中で皆様方の立場からこのような案件や事例があるというようなことも含めてお聞きしながら、また、実際に住まわれている方々ともご相談して、新

たな発想で考えていきたい。明確に分野として地域包括ケアシステムの中で謳われているので非常に重要な重要な視点。例えば住民参加やボランティアのような形で、お年寄りの安否を確認する動きなどが出てきても非常に良いと思う。

●けあねっとめむろ

身寄りがないなつたり代理人がいなつたりで契約できないということになると権利擁護や成年後見の話になるが、北海道ではあまり事例がないものの、本別町で実施されているセーフティ住宅等も、町では難しいかもしれないが社会福祉協議会等が代理人となり生活支援も含めて行うことで国や道からの補助金をいただきながら、身寄りのない方も安心して過ごせるような場所づくりなどを今後一緒に考えていくべきと思っている。

●町長

元の農業試験場職員住宅を町で取得し、産業部門の雇用促進住宅という形で活用している。企業に借り上げていただくという仕組みであり、そのように産業部門ではあるが福祉部門についても今後十分考える余地はあると思っているし、今後必要になってくると思っている。町としても主体的に考えていきたい。

●けあねっとめむろ

以前は町内会活動も盛んで、お年寄りの方も見てもらっていたが、コロナ以降、町内会自体も危うくなっている。そのような状況の中で、独居の方の見守り方などをどのようにしていったらいいのか悩ましい。

●町長

我々も独居の高齢者に関する情報などは押さえていたが、今お話をあったように、地域の縁で色々お手伝いするようなコミュニティではなくなってきていたのは事実。町内会加入率も50%を切る状況。町としても何とかしたいが、任意組織もあり、町が強制的に入りなさいということはできない。町内会加入のメリットは何かと聞かれことが多いが、災害

の面ではやはり地縁が大事だと思っている。災害時個別支援計画というのを町は立てていて、災害の際に支援が必要な方を記している台帳で、台帳の中で支援員を指定して、災害があった際には指定避難所まで対象者を連れて行ってもらうこと等を記すというような取り組みをやっていて、今は47件の個別支援計画を作っている。地縁だけでは難しいので、そのような支援計画を広げていくことも大事だと思っている。また、学校単位でコミュニティスクール等の動きもあり、話題になっているのはRMOという組織など、町内会以外の組織体も重要になってくると思っている。

町内会に関しては、前例踏襲の行事が多く、若い世代のニーズとマッチしていないことが多いという話もあり、若い世代が企画していく雰囲気や仕組みにしていかないと感じている。

●けあねっとめむろ

現在困っているのはやはり人材確保の件で、ベテラン職員が退職したり、夜勤のできる職員が減ったりしてきている。人材確保をどうしているかと言えば、夜勤専従者を確保したり、紹介会社や派遣会社を利用したり、また外国人を雇用したりしているが、まだまだ全然足りない。紹介会社を利用してもなかなか紹介できる人がいないという状況。

そのような中で、昨年来てくれたミャンマー人がすごくいい方で、利用者さんにも本当に優しく、日本語も1年経ったらある程度上手になって、最近は夜勤もちょっと入りだした。今後は外国人の雇用も増やしていくたいと思っていて、現在は雇用促進住宅を使わせていただいているが、距離が遠い。冬になるまでは自転車で通勤できるが、冬になると通えないで送迎をしていたが、そうなると送迎できない日は勤務できない等の制約が生じるため、住宅を見つけて引っ越してもらうことにしたが、これまでより家賃が上がってしまう。家に仕送りもかなり頑張って送っているので、これから夜勤も入ったら家賃分も貰えるという話はしているが、芽室町にそのような外国人材がどの程度いるのかわからないが、外国人の雇用に関して町で何らかの支援をしていただけないかと感じている。

●町長

昔の話だが、私は介護保険導入時に役場の担当者で、そのときは、介護業界は待遇も含めて夢のような業態になるというような話だったと記憶しているが、今の実態を見ると、大変な仕事であり、人材もなかなか確保できない、全然話が違うということは正直思っている。今は色々な業態が人手不足で、介護の世界だけではないが、町がなぜ他の業態ではやっていない、奨学金や介護チャレンジ事業のようなことをやっているのかというと、今後の地域共生社会の在り方として、介護部門が絶対に重要だと認識しているからである。今後も、例えばお金をこのように使ってくれたら人材確保に繋がるなどの意見があればご提案していただきたいと思っている。我々も現場にいるわけではないので、現場にいないとわからない部分もある。

今後は農業もそうだが、これだけ人材不足の状況になってきているので、外国人の受け入れはいかなければならないと感じてきている。農業では肥料をドローンで撒くとか、デジタルを活用して人材不足をカバーできる部分があるが、介護はそうはいかないので人手を確保しなければならない。そのときに、外国人雇用という選択肢はこれから必要ではないかと思う。そのようなときに政策的に公営住宅の入居や家賃補助していくことなどの手法もあり得るかもしれない。

私は介護に関しては大事にしてければいけないという思いがあるので、色々と提案していただきたい。

●けあねっとめむろ

支援1、支援2、要介護1、要介護2は介護度3以上に比べて報酬が少ない。要望だが、町独自の待遇改善の導入を考えてほしい。そうするとスタッフの給料が上がって人材確保に繋がるのではないか。

●町長

町独自となると全ての施設に関して適用させなければならないで難しいと思うが、国に介護報酬見直しの関する要望はできる。

医療現場も同じで、ニュースにもなっているが、特

に公立病院の赤字化が激しくて、物価が高騰しているので診療報酬が2年に1回しか上がらないという実態で、国もやっと診療報酬の改定に前向きになってきているが、公立病院は本当に大変な状況。

介護業界もそうで、介護報酬や診療報酬を国も今一度考え直さないといけないと思う。介護や医療に対する報酬が薄いということは感じていて、町も国へ要望している。今後も強く訴えていきたい。

●けあねっとめむろ

人材不足を解消するための一つの選択肢として、ICT 機器の導入等を皆さん考えられると思う。道の補助等もあるが確証的なものではないので、もし補助から弾かれてしまった場合に、町からの補助があると、ありがたいが、そのような考えはあるかお聞かせ願いたい。

●町長

このような場でご要望いただくとか、あるいは担当課に直接言つていただき、具体的にどのような場面でどのような補助が必要なのかお話いただくことが一番いいと思っている。すべて補助できるかはわからないが検討の土俵には上がると思う。また、町が補助したものに対して逆に国等が補助するという間接補助的なものがあると我々も取り組みやすい。特定の目的に関する財源を町の方も探していくけば実現に結び付く可能性が高まると思う。

●けあねっとめむろ

ICT 等にも関係する話だが、令和 8 年から順次スタート予定と言われている介護情報基盤に関して、利用者の介護保険情報や認定調査情報等の情報共有を順次来年度から始めるところは始めるという話で昨年度から今年度の介護保険部会や社会福祉審議会で話題が出ている。今のところは令和 10 年の 4 月までに全市町村の稼働を目指すということだが、これを実際にやっていただくことで特に居宅包括やケアマネージャー、施設関係者や役場も手間暇がかかるなくなると思うので良い動きだと思っているが、これについて現時点での考え方などをお聞かせいただきたい。

また、公立病院と紐づくかわからないが、バイタルリンクの取り組みで各介護事業所等と医療と介護の連携のような部分でネットワーク化していくともっと作業効率も上がっていき、そうすると人材不足を少しでも解消できる取り組みの一つになると思うので、考えがあれば聞かせてほしい。

●介護保険係長

認定情報等は共有できる形にしたいということは私たちとしても気持ちとしてはすごくあって、調べている状況。どのタイミングで導入できるかということはまだ見えていないのが現状である。

●町長

町としてはやはり DX を進めなくてはいけないと思っていて、それは保健医療福祉分野だけではなく、全体として住民サービスも含めてやっていきたい。町では DX 計画を作っていて、窓口でいかに名前を書かないでやってもらうかとか、データとして押さえて住民基本台帳等ともリンクさせて、書かない窓口やあなたがいるところが芽室町役場という、どこからでもアクセスできますというような仕組みづくりを進めている。色々な申請書類もかなりデジタル化が進んでいて、字を書かないで申請できるという仕組みになってきているので、そのようなものの波及が福祉介護業界にも波及していくと思っている。役場として取り組んでいるところの中に、皆さんの業界にも反映できるものを考えていくたい。

また、バイタルリンクもそうだが、地域包括システムを進めていく中で、避けて通れないことだと思う。情報連携に DX をかませないという話にはならない。情報連携がうまくできるように思っているので、その一つの手法としてバイタルリンクはあり得る。

マイナンバーカードも相当の人が所有して、常時携行するような形になれば情報もまとめやすいが、今はアナログの人もいれば、カードを持っていない人もいる。災害時の対応でも言われるが、避難所に来た人をマイナンバーカードで把握できれば、どこに避難してきたかがすぐわかる。将来的にそれに向かっていければいいと思うが、今はちょうど過渡期で両

方をケアしなければならない状況で難しい時期。ただ、町としては明らかに DX 化が進んでいるので、ぜひこのような機会を通じて、簡素化あるいはデジタル化できないかという部分もご提案いただきたい。

●けあねっとめむろ

要望としては介護情報基盤等が整備されれば、我々や利用者様、役場職員の負担も間違なく減ると思うので、いち早く取り組んでいただきたい。

●けあねっとめむろ

提言だが、空き家の割合が芽室町は 5% 台と言われていて、かなり他の町村に比べたら恵まれている。移住定住等の取組や不動産業者が頑張ってくれているからだと思うが、実際のニーズはわからない。例えば高齢者が芽室町にどれぐらいいて、予備軍がどれくらいいてということがはっきりわかってくると、予防的にそれだとどれだけ足りないのかわかるが、それは不動産業者もわからない。空き家だが、実は空いているだけで、施設や病院にいて戻ってくるかもしれない、親族が住むかもしれない。そのような住宅の有効利用やニーズがつかめていない。高齢者だけでなく低所得者やシングルマザーやファザーも同じなので、住宅政策を全般的に考えていかないといけない。空いている住宅の情報などは役場の固定資産税係は把握しているのかもしれないが、その情報が不動産業者に入ってこないので、借りたい人に紹介したくてもできないという状況である。

●町長

情報も出せる範囲が限られるということは事実としてあるが、空き家対策では地域おこし協力隊も今頑張ってくれているし、不動産業者にもご協力いただきながら色々やっているので、そのような連携ができていることは大きい。より連携を深めて取り組んでいきたい。

●けあねっとめむろ

日々の業務の中で高齢者のご自宅に訪問すると、誰もいないと思っていた2階から物音がして、確認す

ると働いていないお子さんがいて、それも1人だけではなく2人とも働いていない状況もあり、8050問題を超えて6090になるような事態に直面することがあった。お子さんたちにも何かしらの課題があって、同居している家族以外との社会的な接点がないまま50代60代を迎えるといふ家族に遭遇することも多々ある。ご両親の支援が終わってしまうとケアマネージャーが離れてしまうので、そのような方たちへの切れ目ない支援をどのようにしていけばいいのかと困っている。発信してくださるご家族はあいあいに来て自分の思いをお話されたりするが、こちらから行かないで困りごとをお話してくれなかったり、困っていても困っていないと言う家族がいたりする。そのような方たちを切れ目なく支援していきたいと思っているが、町のビジョンなどがあればお聞かせ願いたい。

●町長

ビジョンのような大きい話ではないが、地域包括支援センターや町民活動支援センターなど、センターという施設が多いと担当と話している。子どもからお年寄りまで、何々センターがありすぎて、どのセンターがどのようなことを担っていて、どこにどのような相談をしたらいいのか、町民の方がしっかりと理解しているのかという話を聞いて、機能も含めて整理してお知らせすべきと思っている。

目指すのは全世代型の地域包括ケアシステムであり、今はきっかけとして高齢者をメインに進めているが、最終的には全世代型に持っていくかなくてはいけなくて、子育て支援課や健康福祉課にも言っている。その前段にあるのがスタートしたばかりだが、重層的支援体制。そのようなことを一步一步しっかりとやっていき、機能も整理した上で取り組んでいかなければいけないと考えている。そのような意味での介護部門のメインや中心になるのは、けあねっとめむろの皆さんだと思っているし、医療の場合は公立芽室病院が医療部門の地域包括ケアシステムの中心で、住民参加では町民活動支援センター。そのような拠点、メインになるところがしっかりとあって、そこが連携し始めるということが必要だと考えている。ご家庭の課題などが見て取れるというような形は、

確かにご相談いただかないとわからない部分はあるが、例えばアウトリーチで、子ども関係で行っても、お年寄りがいたり障がいをお持ちの方がいたりという情報を掴んでくるなど、どの方向からいっても連携もでき、情報もつかめるような形になってくることが望ましい。それが重層的支援体制の目的だけは思うが、高齢者支援課はそのスタートとしての地域包括ケアを頑張って確立するよう取り組んでいるところ。子育て支援課や、健康福祉課も必ず一緒に議論しているので、決して縦割りではなく進めている。

また、地域共生政策自治体連携機構の山崎史朗さんが、これからは介護が非常に重要だと言っている。少し角度が違うが、地域医療構想で介護との連携が必要だと明確に言っている。具体的に言うと、医療と介護の複合ニーズはこれから一層高まると言っていて、介護認定となる方は85歳以上の中で全体の60%ぐらいだと言われている。なので、高齢化の中でも特に85歳以上が増えてくると医療だけではなく介護との連携が必要になってくるため、お互いの事業所が縦割りではなく柔軟に対応できるような形に持っていくかいけないということ。我々のような人口減少地域では、特に縦割りを解消しなければいけないということであり、もちろんそれぞれの制度で基準はあるが、例えば訪問通所などサービス間の連携や、医療が介護の部分を行ってみるなど、そのようなことをモデル化して医療点数に入れる等の考え方を持っていると言っている。

そのようになるかどうかはわからないが、いずれにせよ、介護と医療の複合ニーズにこれからは対応していくかなければいけないということはお話を聞いて感じたところである。

目指すところは、制度設計も含めて柔軟的にやっていただくということが、これからの保健医療福祉の世界の目指すところなのかもしれない。

理想論かもしれないが、そのようなビジョンで取り組んでいきたい。



19時50分終了